

身近でできるアバター技術の活用を目指します



RKB毎日放送株式会社

所在地：福岡市早良区



編成戦略本部メディアラボ
クロスメディアプロデューサー
やすます たかし
安増 高志 様

RKB毎日放送の取り組み

RKBはラジオ九州ブロードキャスティングの略称で、元はAMラジオ放送局として発足しました。現在はTBS系列の放送局で、主に福岡エリアを中心に約700万人向けにテレビおよびラジオの放送を行っています。

近年、AI、VRといった単語が盛んに使用され、最新テクノロジーが身近なものとなっています。そこで技術がどのように進化してきているのかを視聴者に紹介したいと考え、2019年4月から「エンタテ! 区〜テレビが知らないe世界〜」と題した深夜番組を毎週水曜深夜0時55分から放映しています。番組ではTHKさんの「しおりん」に登場してもらい、現在のアバター（ユーザーの分身となるキャラクターのこと）技術と将来の展望について紹介を行っています。

例えば、何らかの事情で外出できない人の代わりに買い物をしてもらう、または自宅に居ながら行きたい旅先の風景を送ってもらう、さらに昨今急激に浸透しつつあるテレワークの進化を図る等の実現です。一方、私共報道機関で働く者にとっては、災害現場や紛争地域にかかわらず現場からの報告は欠かせません。そこで命の危険に晒される状況下でロボットを介したアバター技術が活用できれば、遠隔操作でまさに自分の分身としてレポーターの役目を果たしてくれます。このように働き方改革を大きく変えてしまう可能性を追求した内容としています。

「しおりん」に見るTHKのロボット技術の高さ

多くの見本市を訪問し、番組イメージに合うロボットを探しました。ちょうど2019年2月のイベント総合EXPOでTHKさんの「しおりん」に出会いました。複数のアクチュエータを組み合わせることで制作していますが、他社に比べ部品が小さく全体的に線の細い仕上がりとなっています。遠隔操作が可能で、たとえ人混みの中でも威圧感がないのでテレビ向きだと直感しました。関節部分が巧妙にできていて、人の手に近い動きが再現できています。ユーザーが

望むものを具現化できる、ロボットの製作技術に感心しました。

実際、当社前の広場で毎年2日間にわたり開催される「RKBラジオまつり」で、「しおりん」にレポーター役を担ってもらいました。多くの人の輪の中にすんなりと入り込み、アバター機能またティッシュ配りを行う等、大任を十分に果たしていました。さらに深夜番組枠にもかかわらず知名度は高く、フォローアップ数が増加しています。

THKさんには、さらに人間に近い動きを実現させて欲しいと思います。人目線で視聴者との関わり合いが持て、アバター技術を利用した面白い社会作りの可能性を追求したいと思います。



インタビュー中のしおりん

働き方改革の一役を担えるように

産業機器統括本部 技術本部
事業開発統括部
永塚ビジネスユニット
たがわ あいこ
田川 愛子



子供の保育園送り迎えをする際に、周りの方々が「入社せずに仕事ができればいいのに」と話しているのを耳にする機会があります。より緻密な遠隔操作ロボットを開発できれば、「働き方改革」の一役を担えるのではないかと痛感します。今回のRKB様のアバターを利用した社会作りという取り組みを通じ、ロボット開発者として尽力したいと思います。